



営農NEWS



落葉果樹の冬季防除を徹底しましょう

果樹栽培では、収量や品質を低下させる病害虫の越冬密度を減らすため、冬季のうちに園内での管理作業や防除を徹底することが重要です。本年、各種病害虫の発生で問題となった果樹園では、下記を参考に防除を徹底してください。

1 圃場内の落葉処理などを徹底しましょう

果樹病害の多くの病原菌（黒星病、落葉病、うどんこ病、べと病、さび病、灰色かび病など）が、落葉中に寄生して越冬し、翌年に落葉から胞子を生じて飛び散り、再び新しい葉などに感染して発病します。また、ハダニ類など害虫も落葉の下などで越冬します。

このため、落葉はそのまま放置せず、労力を要しますが、エンジン式のブロワ等を利用して出来るだけ丁寧に集めて、土中に埋めるなど適切に処分してください。また、園内で落葉が集まる場所（季節風の風下など）に、深さ30～40cmの適当な幅で溝を掘っておき、そこに集まったものを翌春の3月までに埋め戻すなどの方法や、秋冬季にロータリー耕等により、落葉を粉碎して土中にすき込む簡易な方法でも、効果が期待できます。

今年はナシ黒星病の多発生した園が散見されており、来年の安定生産に向けて、まずは落葉処理の徹底が特に重要です。

さらに、剪定した枝や巻き蔓なども丁寧に集めて、適切に処分してください。なお、剪定した樹の切り口から枯れたり、病原菌が侵入して発病する場合がありますので、ナシ、リンゴ、カキ、ウメなどでは切り口にトップジンMペースト（原液を塗布、使用時期：剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後）またはバッチレート（原液を剪定枝の切り口、病患部の削除あとに塗布、使用時期：剪定時及び病患部削り取り直後）（令和2年12月9日現在）を塗ると効果的です。

2 樹幹の粗皮削りなどを行いましょ

果樹の樹皮は、古くなると表面に亀裂を生じ、デコボコになります。このデコボコした樹皮の隙間に、各種病原菌やハダニ類、カイガラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類などが入り込み、そこで越冬する場所となります。

このため、樹皮の表面を鎌などで削り取って滑らかにすることで、病害虫の越冬する場所を削減し、越冬する密度を低下させることができます。特に、枝の股になっているところは病害虫の越冬場所になりやすいので、念入りに削り取ることが大切です。

なお、粗皮削りは耕種防除の有効な一つですが、厳寒期に粗皮を激しく削ると、樹勢が落ち、凍害を受けやすくなる場合がありますので注意が必要です。また、枝幹部に生じた輪紋病の丸いイボ皮病斑は、周囲の表皮まで含めて丁寧に削り取り、殺菌塗布剤（トップジンMペーストなど）で傷口をふさぐ処理をしてください。

3 休眠期の薬剤防除を実施しましょ

越冬中の薬剤防除として、各種の越冬病害虫に対して効果のある「石灰硫黄合剤」やカイガラムシ類やハダニ類などに効果のある「機械油乳剤95（マシン油乳剤）」の散布が効果的です。これらの薬剤は、新芽が動く前までに散布することが必要で（機械油乳剤の厳寒期や樹勢の低下した樹への散布は控える）、風のない穏やかな日に、かけむらのないように丁寧に散布してください。なお、石灰硫黄合剤と機械油乳剤の混合は絶対に避けてください。また、機械油乳剤の散布した後に石灰硫黄合剤を散布する場合は、1ヶ月以上あけるようにしてください。

表1 落葉果樹（ナシ、リンゴ、カキ、ブドウ、ウメ）の冬季における主な防除薬剤（令和2年12月9日現在）

薬剤名	対象樹種	対象病害虫	希釈倍率	使用時期／使用回数	分類
石灰硫黄合剤	落葉果樹	越冬病害虫、カイガラムシ類	7～10倍※	発芽前／－	F:M2
		ハダニ類	7または7～10倍※		
	ナシ、リンゴ	黒星病	7倍	休眠期／－	I:un
リンゴ	腐らん病	10倍			
機械油乳剤95	落葉果樹（ナシ、リンゴ、カキ、モモ）	カイガラムシ、サビダニ、ハダニ類及びその越冬卵	16～24倍	－／－	－
	落葉果樹	カイガラムシ類	12～14倍		

注) 1. 表中の※印は、農薬メーカーにより登録倍率が異なるため、ラベルで確認して使用してください。

2. 石灰硫黄合剤、機械油乳剤95とも、ラベルの注意事項を十分確認してください。また、石灰硫黄合剤は強アルカリ性のため、散布後の防除器具の洗浄、飛散による自動車等の塗装面の変色、散布者の皮膚への刺激などに注意してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040